

KIGA FOOTBALL CLUB NEWS

～Seize the moment ! Go beyond your limits. ～

1. RESULTS

<平成21年度静岡県高校総体サッカー競技>

「県大会初戦敗退、新たなチャレンジへのスタート！」

1回戦 5/17(日) 気賀 0-2 静岡西 (得)なし

※長い道のりを経て辿り着いた「県大会」は、中部の強豪チーム静岡西相手に0-2での敗退という結果で終了した。

前日からの雨と時折吹く強風で傘が役に立たない最悪のコンディションにもかかわらず、校長先生を始め多くの先生方、たくさんのOBや気賀高卒業生、保護者の方々・・・たくさんの方々が遠方の会場まで足を運び応援をしてくれたことは、チームにとって大きな力となりました。心から御礼申し上げたいと思います。

ゲームについては、「県大会」という舞台の緊張からか、もしくはいつもの悪い癖か「ゲームの入り」が非常に悪く、立ち上がりから一気に相手に押し込まれてしまい、前半5分というあまりにも早すぎる時間に絶対に与えてはいけない先制点をCKから与えてしまった。0-1にされてようやくスイッチが入ると徐々にペースを掴み、MF⑥坪井のあと1cmボールが内側だったら・・・という決定的なシュートなど、いくつかのチャンスを作り出せるようになって前半が終了した。後は同点ゴールを奪うだけという意気込みで臨んだ後半であったが、降り続ける雨はますます強くなり、全くボールが前に進まないようなグランド状態になってしまった。気賀の選手がゴールキックさえ相手FWまでしか蹴れずナーバスになっていく中、静岡西の選手達は普段と変わらないキックで気賀のDFライン裏のスペースへ蹴り込んでくる。ここにはっきりと「基本技術の差」があった。ボールがほとんど自陣から脱出できない時間が続く中、後半15分PKで試合を決定づける2点目を与えてしまい、そのまま試合は終了した。

県大会に「出場する」ために必要なこと、県大会で「戦う」ために必要なこと、県大会で「勝ち進む」ために必要なこと、通用したこと、足りないこと・・・多くのことを感じ取ることのできた大会であったと思う。「県大会出場」が我々のゴールはここではない。あくまでもここからがスタートであり、常に県のレベルで戦えるチーム、結果だけでなくそれにふさわしい質が伴ったチームを目指し、多くの方々の支え、応援、期待を力にしてこれからもチャレンジし続けていきたい。

<新チーム始動>

※インターハイ予選が終了し、3年生DF横山勢矢が引退したが、6名(山田、川口、小林、大窪、広瀬、大山)がユースリーグ、選手権までチームに残ることを決意した。自身の進路へ向けた準備が佳境を迎えるこの時期に、チャンスがある限りチャレンジし続けるという姿勢を見せてくれる3年生の存在はチームに非常に大きな影響を与えてくれるはずである。

新主将：山下 拓誠(2年) 副主将：坪井 駿(2年)、松谷 勇太(1年)

<西部サッカーユースリーグ>

「県Cリーグ昇格へ向けた長い戦いがスタート！」

1次リーグ

(気賀、浜松東、浜松城北工、浜松学芸、浜松江之島、磐田西、芥田学園、浜松湖東B)

8チームリーグ→上位2チームが2次リーグ進出

5/16 (土) 気賀 1-2 浜松湖東B (得) 大窪翔

5/30 (土) 気賀 4-0 芥田学園 (得) 渥美、山田2、今田

5/31 (日) 気賀 3-0 浜松江之島 (得) 坪井、山田、鳥井

6/6 (土) 気賀 10-0 磐田西 (得) 渥美2、坪井、成瀬、杉山、松原、
山田、川合2、小高

6/28 (日) VS 浜松学芸 (気賀G) 10:00

7/18 (土) VS 浜松東 (気賀G) 10:00

7/19 (日) VS 浜松城北工 (気賀G) 10:00

2次リーグ

8/11 (火)・12 (水)・13 (木) 4チームリーグ→上位1チームが西部代表

※西部サッカーユースリーグが開幕した。この大会は、東海プリンスリーグ1部←2部←静岡県Aリーグ←Bリーグ←Cリーグ←東・中・西部地域リーグとつながっている大会である。チームは昨年まで3年連続で1次リーグを通過し2次リーグまで駒を進めたものの、2次リーグで敗退し、3年連続で県Cリーグ参入決定戦への出場を逃してしまっているため、今回は何としても2次リーグ、そして県Cリーグ参入戦を突破して、来シーズンは県Cリーグで戦うことを実現させたい。

しかし、県Cリーグへ昇格するためには、いくつかの大きな壁を乗り越えなくてはならない。最初の壁が現在戦っている1次リーグである。1次リーグを突破するには8チーム中2位以内に入ることが条件となる。1次リーグ初戦のVS 浜松湖東Bを1-2で落としてしまっているだけに、残り3戦一つも負けられない戦いが続く。

2. TOPICS

- ・「今を戦えない者に、次や来年を語る資格はない。」

ロベルト・バジッジョ

- ・「アイルランドの試合は技術的には少々下手でも愚直なまでのひたむきさを発揮して闘っていた。国のプライドを賭けて、他人の目を気にせず、必死に走り回っている姿は美しかった。それに比べて、Jリーグの選手は最近、他人の目ばかり気にしてカッコつけているところがある。あれはあんまり好きじゃない。」

岡田 武史 (日本代表監督)

- ・「スター気取りになってはいけない。でないと、城や前園のように地獄に落ちることになる。」
フィリップ・トルシエ (02W杯日本代表監督)

- ・「モチベーションを維持した選手が大勢いるチームは勝つ確率が高い。試合前に誰かが『さあ、気合いを入れて頑張ろう』と言う前から、僕はモチベーションを最高の状態にしているけどね」
ドラガン・ストイコビッチ (現名古屋グランパスエイト監督)